



広報日造協

www.jalc.or.jp

第456号

2012年3月10日

おかげさまで創立40周年を迎えました

本号の主な内容

- 2、3面 特集 第38回 全国造園デザインコンクール
入選18作品・審査講評
- 3面 【学会の目・眼・芽】第32回 小野 良平氏
造園の百年・千年
- 4面 【緑滴】「植木の町・安行」の歴史⑦ 渡邊 進

発行／社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association） 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03（5684）0011 FAX03（5684）0012

樹林

時代は大きく変わろうとしている。そして時代は企業経営のあり方に対して変化を求めている。自らがまず変わること、新たなビジネスチャンスの地平を拓き、見事に経営革新や業態変化させるケースが増えている。私が約20年、サポートしてきた環境ビジネス分野を例に挙げて説明したい、と思う。国内の環境ビジネス市場規模は08年度現在、97兆9千億円に達し、参入企業数は4000以上。創出された事業アイテムは900を超えている。第1次産業から第3次産業まで全産業に裾野を広げ、言ってみれば全員参加型の成長産業として発展している。各社の市場参入形態で、成功事例の多くは、あくまでコア・コンピタンス（現業の核である技術、事業）を応用して環境ビジネスを創出しているのが特徴だ。たとえば、大手企

業の繊維メーカーはコア技術を活かして、海水を淡水に変える逆浸透膜、金属製だった航空機の翼の代替としての軽量の炭素繊維を開発。自動車メーカーはガソリン車からハイブリット車、電気自動車など技術革新に成功している。最近では昭和シェルが主な製油所を閉鎖。太陽電池の開発、太陽光発電事業に乗り出した。

と、造園建設業界においても、間違いない。未開発の環境ビジネス分野が多く残されているのでは、と思われる。他の建設業と異なり、植物や土壌、土中の微生物など「生物」を知るのが造園業だと、私は認識している。造園業の所有するプロの知識や知恵、技術・ノウハウを活かせる環境ビジネス分野の開口は広い。①都

ピンチはチャンス

造園業に環境ビジネスの拡大のチャンス

エコビジネスネットワーク代表

安藤 眞



一方、地域のモノづくりを得意とする中小企業では地域ニーズに合ったさまざまな環境装置・機器を開発している。いずれも環境ビジネスに拠るところの業態変化率の高さが共通している。

こうした時代に即した変化で、経営的なピンチをチャンスに変えようとする企業形態をウォッチングする

市部のヒートアイランド対策としての多様な緑化事業、②根源的な人々の暮らし・衣食住を支える生物多様性の生態系の一部を保全する事業、③緑化効果によるアメニティ、癒し、職場環境の改善のプロデュース、④これら多発すると考えられる異常気象、地震などの天災後の迅速かつ適正な復旧・復興での支援活動 ⑤

エタノール生産も視野に入れている。農業用水などを利用した小水力発電、竹炭の商品化、有機栽培の農業、植物工場の事業化。造園業の地の利を活かした食品残渣の肥料化、飼料化の他、雪国では大雪の除雪、屋根の雪おろしなど。

大手の造園業者の中には「緑化は義務化の普及から付加価値としての資産の時代へ」と、緑化事業を提案している。商業ビルや大規模マンションの屋上緑化は、そこを利用する人々の「潤い」や「癒し」を提供する空間として位置づけられている。そのためガーデニング教室も開いている。他の事業者は、海外での日本庭園ブームを背に海外展開を積極的に図っている。

願わくば、誰よりも自然環境を知り多くの造園業者が業態変化させ、環境ビジネス市場を活性化していただきたいものである。それが業界の活性化、環境ビジネス市場の多様化を呼び、強いては環境の維持・保全を確保する、と確信する。

○プロフィール：早稲田大学政治経済学部を卒業後、フリーメディアコーディネーターとして活動。87年（株）オフィスメイ設立・代表取締役、88年環境ビジネス関連のシンクタンク「エコビジネスネットワーク」を発足・代表。



受賞された皆様と記念撮影

第38回全国造園デザインコンクール表彰式を開催

文部科学大臣賞、滋賀県立八日市南高等学校が受賞 国土交通大臣賞、獅子裕代さん（滋賀県立八日市南高等学校）

日造協は、平成23年度第38回全国造園デザインコンクール表彰式を2月4日、東京都千代田区麹町の弘済会館で開催した。当日は文部科学省、国土交通省からご来賓をお迎えし、受賞者や審査委員の方々、学校関係者、応募者などに参加頂いた。

本コンクールは、美しい国土と快適な生活環境の実現に欠かすことのできない造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協が主催、共催は（社）ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会、後援は文部科学省、国土交通省、全国農業高等学校長協会、（社）日本造園学会、NHK。今回コンクールへの応募作品は、「住宅庭園部門」、「街区公園部門」、「公共的空間部門」（高校生・大学生・一般、「実習作品部門」）

文部科学大臣賞は滋賀県立八日市南高等学校が受賞。国土交通大臣賞は獅子裕代さん（滋賀県立八日市南高等学校）、（社）日本



審査会の様子

審査会では、審査委員（長野県須坂園芸高等学校）が受賞された。表彰式は冒頭、藤巻司郎日造協会長が「受賞された皆様の作品は日頃の鍛錬の成果が十分に発揮されていた。誠にありがとうございます。当協会では次代を担う造園家の育成に寄与することができるよう今後も努力してまいります」と挨拶を頂いた。

続いて、添野龍雄文部科学省児童生徒課産業教育振興室教科調査官から「受賞作品は、日々の学び・努力の成果と思う。造園の計画、設計、施工、管理、測量等さまざまな技術の集積と、さらにセンスも必要になる。特にセンスを磨くには、良い物を沢山見る事が良いとされている。入賞作品を解説付きでじっくりみることも鑑賞眼を養う事になると思う。また、アレンジの力を高めるためにも学校で学ぶ全ての事を大切にしたい」とのご挨拶を頂いた。

続いて、柳野良明国土交通省公園緑地・景観課緑地環境室長が「最近のコンクールの傾向は地球環境問題がクローズアップされるデザインが多くなった。これに加え、防災や省エネに関する提案も多かった。国土交通大臣賞の受賞作品は、大震災の教訓を踏まえて電気、水等、ライフラインの供給にこだわった理に適う素晴らしいものであった。以前、戦後の荒廃した国土を平和な緑で植樹を行う緑の一週間を行ったことがあった。大震災被災地でも花や緑による復興が行われている。ランドスケープのの仕事は多くの方にやすらぎと勇気を与える。これを契機に益々研鑽を続けて頂き、造園のスピリットを忘れないで欲しい」と述べられた。

その後、特別賞の授与、受賞者による作品発表が行われた。会場から質問やアドバイスが述べられ、最後に審査委員長の藤井英二（千葉大学園芸学部教授）が、「応募総数は昨年より47点多かった。特に高校生の応募が増え、熱心に努力している姿がうかがえる。今回、高校生のデザインで目を引いたのは街区公園の計画で、昨年3月の東日本大震災によって街区公園を身近な空間として見つめ直す提案が多かった。また、実習作品でも素晴らしい作品が多かった。実習で具体的に作ることににより、デザインの精度が増してくる。今回その一つの作品を特別賞として高く評価した」と総括し、講評を締め括られた。

（2・3面に審査講評）

年度末労働災害防止強調月間

3月1日～31日

年度末は、多くの工事が完工時期を迎え、工事が大幅に増えることから労働災害の多発が懸念されています。より一層の労働災害防止活動の推進をお願い致します。



労働災害防止強調月間PRポスター

デザインコンクール 入選18作品・審査講評

■藤井英二郎委員長 千葉大学園芸学部教授
第38回造園デザインコンクールには全国から394点の応募があり、昨年より約50点も多くなりました。

とりわけ、高等学校からの応募数が増えました。高校生は意欲を漲らせたいと思いますし、先生方の熱心なご指導に敬意を表したいと思います。

高校生のデザインで特に目を引きしたのは街区公園の計画です。ここ何年かの表彰式の講評で、街区公園を利用して自分たちの生活空間として提案して下さいとお願いしてきました。今回は、昨年3月の東日本大震災によって街区公園を身近な空間として見つめ直す提案が多くなったように思います。そして、今回はさらに地域内でデザインを具体化する実習も高く評価されました。造園では図面だけでデザインしきれ

ません。実際に造り育てることでデザインが深まりましすし醍醐味が味わえます。今回、特別賞を授与することになった実習作品はそうした醍醐味が伝わってくるものでした。

以上のような高校生の努力に比べて、大学生や一般からの応募は昨年比べて少なく応募内容もやや見劣りしました。高校生のエネルギーを吸収し、それを大きく展開させるような優れた応募が増えることを期待いたします。

■添野龍雄委員(文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官)
今年もすばらしい作品をたくさん拝見することができておりました。

昨年、受賞された皆さんおめでとうございます。そして、応募していただいた皆さん一人一人に感謝するとともに、御指導いただいた先生方にお礼申し上げます。

文部科学大臣賞は滋賀県立八日市南高等学校とさせていただきます。久しぶりの受賞おめでとうございます。

今後、造園デザインを学ぶ皆さんが、より一層のレベルアップを図っていただくとともに、目標を定め取り組み、一つでも多くの作品を仕上げ、応募していただきたいと思っています。

■柳野良明委員(国土交通省都市局公園緑地景観課緑地環境室長)
本年も多くの素晴らしい作品を応募して頂き有難うございます。毎年様々な発想による作品を拝見できることに感謝申し上げます。また、作品をご指導された教育関係の皆様、本コンク

ールを主催する(社)日本造園建設業協会等関係者の皆様に対し、敬意を表します。本年は、昨今関心が高まっている環境をテーマにした作品に加え、昨年発生した東日本大震災を踏まえ、防災、エネルギー等に配慮した作品が多く見られたことが印象的でした。皆様の様々なアイデアも活用され、被災地の日も早い復興が進むことを改めてお祈りいたします。

そのような中で、国土交通大臣賞を受賞した滋賀県立八日市南高校の獅子裕代さんの作品は、東日本大震災の教訓を踏まえ電気水等ライフラインの供給に拘った防災公園を提案する時宜になう作品となつていま

した。今後のますますのご活躍を心祈念申し上げます。造園は、人々の生活に潤いや安心を与え、環境に貢献する創造性の高い仕事です。来年も多くの皆さんが、豊かな発想で作品を応募されることを期待します。

■鈴木誠委員(社)日本造園学会監事
(社)日本造園学会会長賞受賞作品は、地域に埋もれていた歴史的な遺産を、高校生主体の造園実習で現代に甦らせた作品。造園力を感じさせる。

300年程前に造られた用水路のための水源池は、ダム建設で役目を終え40年近くも忘れられていた。そこを身近に感じる自然豊かな場所に変身させるべく、

「生物多様性を軸としたデザインプログラムを確立して設計・施工したという。造園は、人々の生活に潤いや安心を与え、環境に貢献する創造性の高い仕事です。来年も多くの皆さんが、豊かな発想で作品を応募されることを期待します。」

地域遺産を目指し、歴史性と自然性の両者を兼ね備えた実習作品として完成させた点に、獨創性・先進性を認めた。

今年も素晴らしい作品を応募いただきありがとうございます。昨年比して47作品増の394作品を審査させていただきました。その半分以上が高校生

の住宅庭園部門の作品で、先生方のご指導に深く感謝しております。今回は、実習作品への応募が増加し、益々今後が楽しみです。これからも制作風景などを載せていただくと、生き生きとした姿が見られとても好評です。他の部門では、「環境」や「絆」などをキーワードにした作品が多くあり、しっかりと計画に当たった事が伺えました。次回にも、多くのご応募を期待しております。

■鈴木一志委員(全国高等学校造園教育研究協議会理事長)
昨年度と比較すると、高校生の住宅・街区・実習部門は応募作品が多くなりま

したが、公共部門は応募数がなかなか増えません。ぜひ、来年度は公共部門にも挑戦していただきたいと思っています。

作品の内容は、高校生らしいユニークなものが目立ちましたが、CADを使用せずに手描きの図面にこだわっている学校や、模型を制作して写真を添付している学校もあり、それぞれ工夫をしている様子が窺われました。先生方のご指導の賜物と感謝しております。

今後とも、素晴らしい作品の出現を期待しております。

■村岡政子委員(社)ランドスケープコンサルタンツ協会監事
今年も冬枯れの木立の美しい審査会場で、造園を学

ばる。造園は、人々の生活に潤いや安心を与え、環境に貢献する創造性の高い仕事です。来年も多くの皆さんが、豊かな発想で作品を応募されることを期待します。

■大室徳治委員(全国高等学校造園教育研究協議会理事長)
今年も素晴らしい作品を応募いただきありがとうございます。昨年比して47作品増の394作品を審査させていただきました。その半分以上が高校生

街区公園計画図

D. P. P (Disaster Prevention Park)

～地域の人々の心と安心を育む防災公園に・・・～



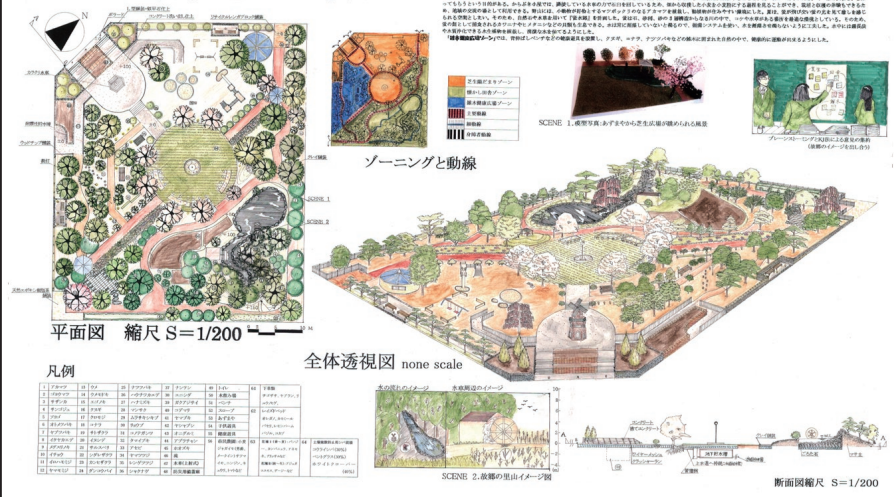
国土交通大臣賞 獅子 裕代 滋賀県立八日市南高等学校(高校生の部・街区公園部門)



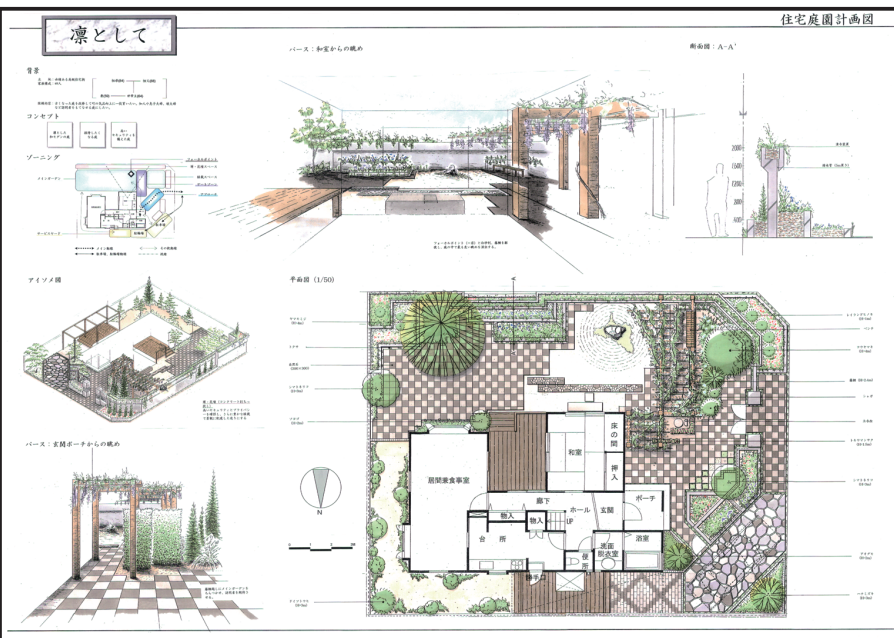
(社)日本造園学会会長賞 奥村 雅代 滋賀県立八日市南高等学校(高校生の部・実習作品部門)

街区公園計画図

テーマ：故郷を感じる公園



(社)日本造園建設業協会会長賞 加藤 春実 長野県須坂園芸高等学校(高校生の部・街区公園部門)



(社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 本橋 孝朗 E & Gアカデミー東京校(大学生の部・住宅庭園部門)

九州初の「立曳き」でクスの巨木を移植

小学生65名も参加、新たな事業展開へ期待

古くから伝わる「神楽
棧（かぐらさん）」を使っ
ての「立曳き」による樹齢
100年、高さ15m、幹回
り3.8m、重量70tのクス
ノキの移植が、2月8日(水)
本市新屋敷の白川左岸で行
われた。

国交省をはじめ地元関係
者、隣接する白川小学校の
児童65名も参加、多くの市
民が見守る中、揃いの法被



立曳き前



「かぐらさん」を巻く白川小学校児童たち

で以上に行うことが大切
で、定期的に要望を行うこ
とが必要」「次世代の人材
育成や地方行政に対して環
境を切り口にした新たな技
術提案を行うべき」との意

見や「環境省との意見交換
会等の内容や動きなどの情
報が欲しい」といった意見
もあがった。

また、「口号国営公園」
の誘導に取組んでいるが、
今後の活動展開について、
本部にもサポートの要請を
した。

（事務局 高橋 勲）

連携強化や資格者の有効活用など提案

四国総支部・支部交流会開催

四国総支部・支部は1月
27日、愛媛県松山市の東京
第一ホテル松山で本部との
交流会を開催した。

四国総支部・支部からは
鬼頭慎一総支部長ら役員22
名、本部からは藤巻司郎会
長、横石ひとみ係長が出席
した。

まず本部から活動状況の
報告の後、四国総支部・支
部から現状報告を行い、次
いで意見交換が行われた。

また、要望書提出の成果
については「すでに絶大な
効果がある訳ではないが、
少しずつ効果はある。特に
地域の声として上げること
や、国が観光立国を標榜し
ているので、そのような視
点からの要望も大切である」
との回答であった。

さらに、近年植栽工事よ
りも遊具関係の工事が多い
ことについて、高知県で
は、工事の7割は遊具関係
を報告した。

この他にも日造協本部と
地方との連携強化や一般社
団法人移行による変更点な
どを話し合った。

（事務局 片岡成文）

新法人移行に伴う事業運営面の変更点などを確認

北海道総支部・支部交流会開催

北海道総支部・支部は2
月2日、同総支部会議室(札
幌市中央区)で本部との交

流会を開催した。
総支部・支部から笹本知
総支部長ほか14名が、本
部からは高梨雅明常任顧
問、横石ひとみ係長が出席
し、本部からの活動状況報
告などをもとに質疑を行
い、一般社団法人移行に伴
う理事会・総会や日造協活
動の展開方向等について変
更点などを確認した。

また、「国交省地方整備
局等への要望活動をこれま

の議決事項から理事会で

の議決事項となること。」「委
員会活動を中心とするメン
バーが機動的に活動できる
ような方式にした方がよい」
という意見があつたことか
ら各総支部との情報共有・
交流を図りつつ、個別具体
的な課題について重点を置
いて対応する体制の構築
を検討していることを確認
した。

また、「国交省地方整備
局等への要望活動をこれま

の議決事項となること。」「委
員会活動を中心とするメン
バーが機動的に活動できる
ような方式にした方がよい」
という意見があつたことか
ら各総支部との情報共有・
交流を図りつつ、個別具体
的な課題について重点を置
いて対応する体制の構築
を検討していることを確認
した。

また、「国交省地方整備
局等への要望活動をこれま

の議決事項となること。」「委
員会活動を中心とするメン
バーが機動的に活動できる
ような方式にした方がよい」
という意見があつたことか
ら各総支部との情報共有・
交流を図りつつ、個別具体
的な課題について重点を置
いて対応する体制の構築
を検討していることを確認
した。

委員会等の活動

○技術委員会（全国）

平成24年度事業方針等に
ついて審議した。
(2月7日火)

○総務委員会（広報部会）

平成24年度事業方針、広報
日造協3月号～6月号の紙
面内容等について審議した。
(2月22日水)

○資格制度検討会議

平成24年度から本格施行
する資格制度規程類につい
て、総支部・支部等の意見を
ふまえ、再度整備を行った。
(3月1日木)

○事業委員会（全国）

平成23年度の事業報告と
24年度の事業計画、財政・
運営に関わる課題への対
応。来年度の重要課題とし
て、要望活動の方針、全国
17(金)・日本造園建設業厚生

事務局の動き

2(木) 北海道総支部・支部
交流会

3(金) 沖縄国際洋蘭博覧会
審査会

4(土) 全国造園デザインコ
ンクール表彰式

6(月) 運営会議

7(火) 技術委員会(全国)
17(金) 日本造園建設業厚生

日造協賛助会員の紹介 39

(株)アボック社

公共・民間造園工事の提
案型「案内・解説サイン」
や「植物名ラベル」の専門
メーカー。全国6営業所の
企画営業マンがオリジナル
サインを提案・設計・制作
納品までを一貫担当します。

●サイン取扱連絡先

東京03-5404-7222 長尾
大阪06-6942-8466 石井
横浜045-650-3139 竹内
東北02-622-4520 佐藤
仙台022-536-309 齊藤
北海道011-374-6921 及川
4万種のWeb植物辞書
「花ペディア」公開中



1(木) 資格制度検討会議
運営会議
2(金) 事業委員会(全国)
5(月) 登録造園基幹技能者
講習(札幌) 6(火)
6(火) 登録造園基幹技能者
特別講習(札幌)
7(水) 建設系CPD協議会
運営委員会
8(木) アクションプログラ
ム推進等特別委員会

9(金) 中国総支部・支部交流
講習委員会
14(水) 登録造園基幹技能者
講習委員会

19(月) 総務委員会(企画・
財務合同部会)
21(水) フロリアード監修等
部との意見交換会
22(木) 総務委員会(全国)
23(金) 総務委員会(広報部会)
27(火) AIPHスプリング
ミーティング(トル
コ) 31(日)

26(月) 通常理事会
総支部長等会議
27(火) AIPHスプリング
ミーティング(トル
コ) 31(日)

「植木の町・安行」の歴史 ①

戦時中、食料不足のために植木か
らサツマイモや麦に強制的に転用さ
れ、植木の生産が壊滅状態になりま
したが、戦後植木の生産が本格的に
始まり、1960年～1973年に
は、緑化ブームが始まり、東京オリ
ンピック(1964年・日本万国博
覧会(1970年)が開催され、
景気がよく、植木の売り止めがある
時代でした。この頃は全国の植木屋
さんが、よく買い付けに来ました。



私の家の前の1.5km程の県道の両側に
植木を並べてやりを行っていました。
その後、第一次オイルショック
(1973年・第二次オイルショク
(1979年)があり一時期植木の
生産も減少しましたが、また少しづ
つ景気が回復し大木が動くようにな
り、植木の町も活気づくようになり
ました。しかし平成に入り湾岸戦争
の頃から植木の動きが鈍くなりまし
と感じています。

渡邊 進(株八廣園)